

43 明治小学校

地域とともにある学校づくり

小中一貫教育の実践（教育活動の方向性）

中学校区の目指す子ども像	ふるさと頸城を愛し、思いやりにあふれ、未来をたくましく切り拓く子ども
我が校の目指す子ども像	よく考え自ら学ぶ子 進んでかかわる子 元気に運動する子



小中一貫教育の具体的な取組	
我が校の取組	中学校区の取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に学び、自分の考えをつくる力、伝え合う力の育成</li> <li>運動習慣の定着と、生活リズムを自分でコントロールする力の育成</li> </ul>	3部会（学力向上部、豊かな心部、健康づくり部）を柱とした小中学校連絡会（小中一貫教育「頸城プロジェクト」）による実践
成果○と課題■	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善の視点を明確にした授業研究・協議会の実施と成果の蓄積</li> <li>○よさこい体験、休み時間を活用したチャレンジスポーツ等の実施 ⇒様々な運動に触れ、身体を動かす楽しさを実感して遊ぶ子どもの増加</li> <li>■メディア時間と就寝時刻が守れない子どもの増加と低年齢化 ⇒家庭・地域とのさらなる連携と「眠育」の実施</li> <li>■同和教育研究指定地区制度2年目に向けた人権教育・同和教育の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各校の研究授業の参観交流を実施</li> <li>○同和教育研究指定地区制度の1年目として、授業の充実や人権講演会の実施</li> <li>○区内小中学校教職員対象の合同メディア講演会の開催</li> <li>○頸城プロジェクトを地域や保護者に発信するための広報誌の全戸配布</li> <li>■授業改善の推進とICTを活用した学習活動の充実</li> <li>■同和教育研究指定地区制度2年目の取組</li> <li>■家庭や地域を巻き込んだメディアシャットダウンの取組</li> </ul>

〈夢・志チャレンジスクール事業の取組（地域とともにある学校づくり実践）〉

取組の概要	主な活動内容	
子どもが主体的に課題解決に向けて取り組めるよう、地域の教育材を活用し、探究する時間を十分に確保した。里山、大豆栽培、人との出会い等で地域の教育材と繰り返しかかわることを通し、ふるさとに愛着をもち、ふるさとを大切にしていこうとする意欲が高まった。また、発達段階に応じた探究過程や方法、発信の仕方を工夫する様子が見られた。	総合	「よつば おひさま 自然教室」（3・4年）
	総合	「大豆プロジェクト」（5年）
	総合	「つくる」（6年）
学校運営協議会の評価 総合的な学習の時間では、大蒲生田の里山をフィールドにした活動が定着し、毎年成果を上げている。それだけでなく、クリーン活動やにじいろガーデンの活動など、コロナ禍においても、小規模校のよさを活かして地域とのつながりを絶やさずに活動を実施している。今後も続けていってほしい。	○	当てはまる
		どちらかという当てはまる
		どちらかという当てはまらない
		当てはまらない

# スクールマネジメント実践報告書

## 学校運営協議会の活動内容

学校運営協議会の委員の構成									
教職員	3人	保護者	2人	住 民	5人	その他	1人	合計	11人
学校運営協議会の回数 ※（ ）は、回数内における紙面協議回数	学校単独	1学期	1回 (0)	2学期	1回 (0)	3学期	1回 (1)	合計3回 (1)	
	中学校区合同 ※中学校区で同数にする	1学期	1回 (0)	2学期	0回 (0)	3学期	0回 (0)	合計1回 (0)	

活動の内容	成果○と課題■
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月にカリキュラム検討会を実施した。主に生活科や総合的な学習の時間において、地域からどのような支援が可能か情報をいただき、ふるさとに学ぶ活動に活かした。</li> <li>・花壇実行委員会と一緒に四季を通じた名所花壇「にじいろガーデン」の整美と一人一鉢の活動、青少協と一緒に地域のクリーン活動など、学校と地域が一体となって取り組んだ。</li> </ul>	<p>○総合的な学習の時間において、より充実したふるさとに学ぶ活動を展開することができた。9月には活動の中間報告を行った。</p> <p>○名所花壇「にじいろガーデン」の活動や、クリーン活動は地域住民にも定着しており、多くの参加者とともに活動できた。</p> <p>■定着している活動が、より一層充実した教育活動になるよう、改善を図っていく必要がある。</p>

総 括
<p>5年生の総合的な学習の時間において、新たな地域材を見出すことができた。従来通りに甘んじず、新たな地域材を発掘し教育活動に活かすことができるよう、地域との熟議を重ねることが大切であると感じた。今後も、子どもたちを中心にして、学校と地域、保護者のつながりを大切に、小規模校だからこそできる活動を行っていきたい。</p>

### 〈活動写真〉



○カリキュラム検討会(5月)  
視覚的カリキュラム表をもとに、低・中・高学年に分かれて1年間の活動について話し合った。地域住民だからこそ分かる情報を数多くいただいた。



○学校花壇の整美活動  
春と秋2回の活動で、約70名から支援をいただいた。縦割り班ごとに、地域の方々や保育園児と交流しながら花の苗植えや球根植えを行った。



○3・4年ふるさとに学ぶ活動  
大蒲生田地区で、学校運営協議会委員の協力のもと、年間を通じた地域探索活動やホテルの幼生の飼育・放流活動を行った。